

平成27年3月12日

社会奉仕活動について

宇部クラブでは3月8日の「うべ福祉まつり」に参加しましたし、3月21日には「宇部市彫刻清掃」の社会奉仕活動をあります。

社会奉仕活動のことを「ロータリーの心臓の鼓動である」と表現されることもあります。

奉仕の第三部門である社会奉仕は、クラブの所在地域または行政区域内に居住する人々の生活の質を高めるために、時には他と協力しながら、会員が行うさまざまな取り組みからなるものです。

脈々と培われてきた奉仕の鼓動を各クラブが、それぞれの形で地域のニーズに対応し具現化していくのが、ロータリーの社会奉仕であり、使命であります。

本日はシカゴロータリークラブの社会奉仕活動に関する話をご紹介します。

シカゴロータリークラブが公衆便所を設置し、これがロータリーの最初の奉仕活動になったことはあまりにも有名です。しかし、すんなりと設置できたわけではありません。

1907年、シカゴ・クラブ会長に就任したポール・ハリスは、たまたま出席した商工会の集まりで、シカゴの中心部にありますループ地区の通行人が公衆便所がないために不便な思いをしているという話を聞き込み、これを奉仕活動を実践する絶好の機会だと捉えました。

シカゴクラブは、早速、グレート・ノーザン・ホテルに25の市民団体の代表を集め、連合公衆便所建設委員会を設立して、行政に働きかけますが、既に施設内にトイレを持っていることを強く主張する、シカゴ醸造組合と百貨店組合の激しい妨害を受けます。

当時のループ地区で顧客用にトイレを供用していたのは、百貨店かバーくらいしかなく、トイレを借りる必要に迫られた通行人は、女性は化粧品を買うことを口実に百貨店に入り、男性はビールを飲みバーの扉をくぐったついでに、トイレを借りなければなりません。もし、無料のトイレができれば、これらの店の収入に影響を与えることは、誰の目にも明らかでした。交渉は長引き、土地を掘り起こすまでに2年の歳月が掛かってしまいましたが、最終的には、建設用地と20,000ドルの補助金を市当局から受け取ることに成功して、1909年に市役所と公立図書館の横に二つの公衆便所が出来上がったのです。

ロータリーが最初に行った社会奉仕活動は、単に金銭を拠出した団体活動ではなかったことに注目したいと思います。

奉仕とは生き方であり、「思いやりの心を重んじる」ことです。有効な奉仕活動は地域でのロータリーの評価となり、そしてその志に共鳴する同志が現れ、会員増強につながります。また会員が汗を流しての奉仕は、相互の友情をより高いものにすると思います。